造園学を志すきっかけとなった
庭石の据え方と庭づくりの教科書

自然・環境マネジメント研究部　環境計画研究グループ　大平 和弘

■庭づくりとの出会い

私は、大学時代の庭づくりの実習やアルバイトを通じ、石が庭の主役であり、石の表情や据え方によって様々な情景を生み出すことが、庭づくりの肝であることを学びました。

庭づくりで石を据える作業風景

■庭石の据え方の原点『作庭記』

庭師から、庭石の据え方として、『作庭記』の手法を学びました。『作庭記』は平安時代後期にかかれた世界最古の庭づくりの教科書です。

この中の「立石口伝」の章では、「その石のこはんにしたがひて立べき也」との一節があり、「石が乞う場所に据える」すなわち、１つ１つ違う石の表情を読み取り、その石が海山川などの自然の風景の中にあるべき姿を尊重する考え方が記されています。

平安時代の毛越寺庭園には、『作庭記』の一節「はなれいでたる石」のような石①や、昭和に作庭された法華寺仔犬の庭にも、「むら犬のふせるがごとし」のような石②を見ることができます。庭石を通じて様々な情景を想像すると、庭を鑑賞する楽しみ方が増えることでしょう。

①大海の荒磯のような毛越寺庭園（岩手県）

②お母さん犬と仔犬のような法華寺仔犬の庭（奈良県）

■江戸時代の庭づくりの教科書『築山庭造伝』

『作庭記』などの技法を受け継ぎ、図解などを用いて解説した『築山庭造伝』を当館で収蔵しています。江戸時代に最も広く普及した庭づくりの教科書です。この機会にぜひご覧いただき、庭づくりの世界に触れてみませんか。